



2002.12.16
第119号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
峯 島 和 彦

編集協力
沼会会
両議長
麻耶・津北
連絡教
協中
小

「教育改革」雑感

福島県教育庁会津教育事務所総務次長

藍 原 孝 文



わが国では、行財政構造改革の一環として、「教育改革」が進行している。いじめ、不登校、いわゆる学級崩壊等の「教育問題」を契機にその抜本的な対策が求められている中、国は、学校週五日制や新教育課程の実施等を通じて、「つめ込み教育」から「ゆとり教育」への転換を図ろうとしている。本県でも、「新世紀ふくしまの学び2010」、「うつくしま教育改革推進プログラム」、「開かれた学校づくり」への施策展開を通じて、家庭・地域との連携協力の中で学校教育を展開しようとしている。

このような中で、マスコミ等には、「ゆとり教育」が、学力を低下させないか、塾通いを強くないか、さらには、地域や公私立の間の学力格差を生まないか等の不安や懸念とともに、「教育問題」は本当に解決できるのかという疑問などが寄せられている。また、デフレ不況下の倒産、リストラ等で生活不安が募る家庭や地域は、新たに求められる教育負担にこたえられないのか心配されることもある。いずれにしても、少子高齢化が進むわが国においては、多様な価値を認知する「ともに生きる社会」の創造を目指して教育改革が進められるべきであり、その目的と進め方については、十分な論議と国民的な合意を得ることが肝要であると考える。

義務教育は、子供たちにとって後戻りのできないものであるから、将来に禍根を残す安易な取り組みは許されないこととあり、ましてや教育改革は、その影響が大きいが故その慎重な対応が求められる。教育は人間にとってなぜ必要なのか、誰のために誰が行い何を教えなければならぬのか、どのくらいの期間をどの程度で何のために学ばなければならぬのか、又、そのコストはどのくらい掛かり誰が負担するのか等々、基本的なことを社会的に確認していくことが教育改革には必要なことである。

者の方々が、真の改革の意識を堅持し、子供たちとともに教育現場から実践を通じて問

学力向上

福島県教育委員会では、本年度から、基礎学力向上推進支援事業の三つの課題を新たに示し、その解決に向けた取り組みを推進しております。

〈三つの課題〉

- 1 「分かる授業」の設計・実施・評価
- 2 小・中・高等学校の学習内容、方法の円滑な接続
- 3 発展的な指導と補足的な指導などの個に応じた指導と評価

○「生きる力」をはぐくむための学習評価の推進

- ・ 児童生徒の学習の到達度を評価するための評価規準の作成と評価方法の工夫
- 個に応じた指導の充実
- ・ 個別指導やグループ指導などの指導方法の工夫
- ・ 理解の状況に応じた繰り返し指導や補充指導、課題別指導等

指導課だより

題解決の手法を見い出されることを切に願うところである。

- ・ 学習の複線化、少人数指導、T・T指導など指導体制の工夫改善

○「自ら学び自ら考える力」の育成のための教材開発

特に3については、フロンティアスクール（域内三校）、基礎学力向上推進モデル校（域内八校）において研究を推進していただき、その成果を広く普及させ、各学校において生かしていくという取り組みを進めているところです。

各学校においては、目標に準拠した評価を指導に生かすため、具体的に評価規準を作成し、活用していると思いますが、今後なお一層具体的なものに改善し、三つの課題の解決に全力を挙げて取り組んでいただきますようお願いいたします。

基礎学力向上推進モデル校の取り組み

『生き生きと話し、真剣に聞く子をめざして』

磐梯町立磐梯第一小学校

本校では、平成十二年度から「話す・聞く力を育てる指導」を研究主題として、生き生きと話し、真剣に聞く子をめざして研究を進めている。

今年度は、主に次の三点を研究仮説として、児童が「対話」を意識する授業、「対話」を経験する授業の展開を構想し、次のことに取り組んでいる。

- ①年間指導計画の作成
- ②五つの言語意識を明確にした系統的な指導の工夫
- ③身につけた力を生かす場の設定
- ④については、各学級毎にめざす児童像・単元学習・取り立て学習・実践の場・評価規準・評価方法を盛り込んだ「話すこと・聞くこと」の年間指導計画を作成し、児童の話す聞く力の定着を図っている。

の要素を取り入れた言語活動の授業。中学年では相手意識・目的意識に重点を置き、聞き取りカード・話し方カードを活用した授業。高学年では目的意識・場面意識に重点を置き、討論(ディベート)・インタビュール・プレゼンテーション等を取り入れた授業を実践している。



③については、授業で身につけた対話能力を他教科や他領域において生かすことができるよう、教育活動全般に意図的に対話活動を設定して実践している。

〈プレゼンテーションを取り入れた実践例〉

六年の授業では、自分の言いたいことや思いが相手によく伝わるように組み立てを考へながら話す力、話し手の意図をつかみながら聞く力を育てるために、プレゼンテーションという言語活動を取り入れた授業を展開した。

自分の所属する部活動のよさを上手に伝えるために、小グループ

で相互評価をもとによりよいプレゼンテーションにするための練り上げの場を設定することで、子供たちは話し手の意図を考へながら聞き、質問したり、アドバイスをしたり活発な対話活動をすることができた。

六年の授業と関連づけて、四年では、「六年生のプレゼンテーションを聞く」という単元を開発し、聞き取りカードや話し方カードを活用して、メモを取りながら要点を聞き取る力、質問したり感想を持ちたりすることができるよう育てようとした。子供たちは、自分に合った聞き取りカードを選択し、集中して六年生の話を聞き取り、質問や感想(対話)などを発表するこ



とができた。六年生も前回の話し合いを生かし、よりよいプレゼンテーションをすることができた。

「一人一人を本当に生かすには？」

金山町立横田中学校

本年度研究の構想

全校生徒三十一名という本校の特色を生かして基礎学力の定着を図り、かつ教科の本質に根ざした「楽しさ」を一人一人が味わえる授業を創るにはどうすればよいか。研究の構想を次の図のようにとらえた。



具体的な実践例

- 一人一人の学習状況・学習スタイルを把握するために
- ①単元の学習に必要な基礎的・基本的事項を洗い出す。
- ②その定着度・問題解決の速さ・正確性をみる小テストを作成し事前に実施する。
- ③好きな学習方法・形態、得手不得手分野と意識、学習

内容に対する興味関心、授業に対する願い等をもつためのアンケートを実施する。

④日常の観察や外部テストの結果も併せて分析し、一人一人の課題や予想されるつまづきを明らかにして一覽表にまとめる。

学年	単元	学習目標	指導内容	評価方法
中学1年	1. 国語	1. 読解力	1. 読解力	1. 読解力
中学2年	2. 国語	2. 読解力	2. 読解力	2. 読解力
中学3年	3. 国語	3. 読解力	3. 読解力	3. 読解力

- 一人一人に分析結果を生かした具体的な支援をするために
 - ①学習スタイルに合わせた課題や課題確認、支援資料の作成とその与え方、班編成(感覚運動型の生徒に図を中心とした課題、視覚型の生徒で班を編成など)を工夫する。
 - ②学習過程で各活動ごとに目標を設定し自分の今の学習を修正できる自己評価表の活用を図る。
- 以上の手だての有効性を検証しつつ、生徒一人一人を本当に生かした授業をめざし研究を深めていきたい。

フロンティアスクールの取り組み

確かな学力の向上のために

喜多方市立第一小学校

本校では、本年度から、文部科学省「学力向上フロンティア事業」の指定を受け、研究主題「個が生きたる授業の創造」のもと、研究実践を重ねている。



習熟度別の実践では、個々の学習速度の差が小さくなるため、学習時間を有効に使うことができ、補充的な学習や発展的な学習に取り組み易くなり、効果をあげている。各コースの内容を子どもに伝えること、小

一、国語科の実践例
「話すこと・聞くこと」に力を入れて指導している。

一年生「いろいろなもののはっぴょうかい」では、「話す・聞く」のポイントを確認した後、グループ内で自分が選んだ乗り物について紹介し合った。話し手が「役目は何でしょう。」「どんな工夫をしているでしょう。」「と問いかけ、相互評価しながら学習をすすめた。

少人数グループでの活動は、一人一人に話

す時間を十分持たせることができ、集中して聞く経験を積むことにもなった。

三、総合的な学習の時間の実践例
身近な地域の人、もの、ことに直接関わることを大切にして教材開発を進めている。

二、算数科の実践例
四〜六年生で学級の枠を外した少人数指導を試みている。三学級を四〜五つのグループに編成し、学習環境は、オープンスペースや学年隣接の余裕教室に長机や椅子を置くことにより整えている。

五年生「命を見つめて」では、ねらいを生命誕生の神秘性や命の重みを感じとらせ、生き方に

確かな力を身に付け学び続ける子どもの育成

会津若松市立行仁小学校

本校は、これまでのT・Tの指導体制を基盤として、子どもたちに確かな力を身に付けさせることをねらいとして研究に取り組んでいる。

「確かな力」と「学ぶ喜び」が「生きる力」を育み、生涯にわたって、「学び続ける子ども」を育成していくことになると考える。

- ① 研究内容は①個に応じた指導、
- ② 評価を生かした指導の改善、
- ③ 教科担任制の導入、とし、T・Tによる個に応じた指導の充実を図っている。

一、実践例

第二学年「かけ算(一)」(単元末の習熟度別学習)

- 一、習熟度別学習について
- ① 評価規程および達成基準を作成し、習熟度別指導の目標を明確にする。
- ② 基本的にコースは子どもの選択による。(必要があれば適切な助言をする。)学習集団は固

ついてでも考えさせることとした。自分の誕生や成長について調べたり、助産師から命の誕生について話を聞いたりした。「みんなの思いが込められて産まれてきたと思えました。」「みんなが喜んでくれたことが分かってうれしかった。」など家族の思いを

感できたようであった。この後、命を守る仕事を調べる活動へとつながっている。

定せず、目的に応じて適宜弾力的に編成する。

③ 目標を実現するため学習材の選択や開発に努める。

④ 習熟度別学習の目的や目標、内容などを保護者や子どもに対し、十分説明し、理解を得る。

三、本時について

① どきどきコース(T2)

十分達成の子ども達に、発展的課題として点字ブロックを教材として与え、ドットの数を通して、乗法を用いて数える活動を通して、乗法を用いるよさ、かけ算のよさ、その美しさ、数の不思議などについて気づかせていった。

② どきどきコース(T3)

おおむね達成している子ども達にチェック問題↓ブラックボックスで乗法の意味を確認↓九九ビンゴの流れで、深化の学習に取り組ませた。



③ めきめきコース(T1)

努力を要する子ども達に教師と共に少人数で、スモールステップでできる問題↓九九ビンゴに取り組ませ、乗法計算が確実にできるようにしていった。

今後も、発展的な学習などの実践を積み重ねていきたい。



「確かな学力」を求めて

河東町立河東中学校

本校は、文部科学省より学力向上フロンティアスクールの指定を受け、研究主題に「確かな学力を身につけさせるための、個に応じた指導の工夫」を掲げ、一人一人に基礎・基本を確実に定着させることができる学習形態（習熟度別学習やT・T指導）の工夫に視点をあて、個に応じた指導、とりわけ発展的な学習のあり方について研究実践を進めている。



習熟度別学習の実践内容

必修教科では、国語・数学・英語の三教科で単元の再構成を工夫しながら主に単元のまとめの時間に習熟度別学習を実施している。

国語科では、二学級を三コースに分け、さらに中間コースを二つに分けた四コースを編成した。数学科では、一学級二名でのT・T指導を基本として、二〜三コースを編成した。英語科では、二学級四コースや一学級三コースに編成して指導している。各コースに二十名程度の生徒を一人の教師が担当し、個人の習熟度に応じたコースによって、発展的な内容や補充的な内容を扱うことにした。このことにより、個人差に応じたきめ細かな指導が可能になり、主体的に課題を追求したり自己のつまづきを改善しようとする姿が多く見られるようになった。

この他に、選択教科における基礎・発展コースの設定や日課表の改善、各種検定試験の奨励など多くの学びの機会を設けるよう努めている。

また、河東町では町内四校における町基礎学力向上（ライジングプラン）推進事業の中で、小中合同の教科部会による指導案検討委員会や合同授業研究会を開催しており、学習状況の的確な把握や系統的な指導に、小中連携を図りながら取り組んでいる。

個に応じた指導の研究実践を進めるにしたがって、生徒一人一人の個性やよさに改めて気づく毎日である。「確かな学力」向上をめざした特色のある学校づくりのため、発展的内容の教材開発・自己評価能力の育成・学ぶ習慣の定着等さらに研究を推進するとともに我々教師の力量も高めていきたい。

体験活動・ボランティア推進センター事業の概要と取り組み

会津地域体験活動・ボランティア推進センター

平成十三年七月の学校教育法及び社会教育法の改正や今年度からの学校週五日制の完全実施、さらに今年七月の中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」の提言を踏まえ、地域で子どもを育てる環境の充実、人間性豊かな青少年を育むことが今、求められている。

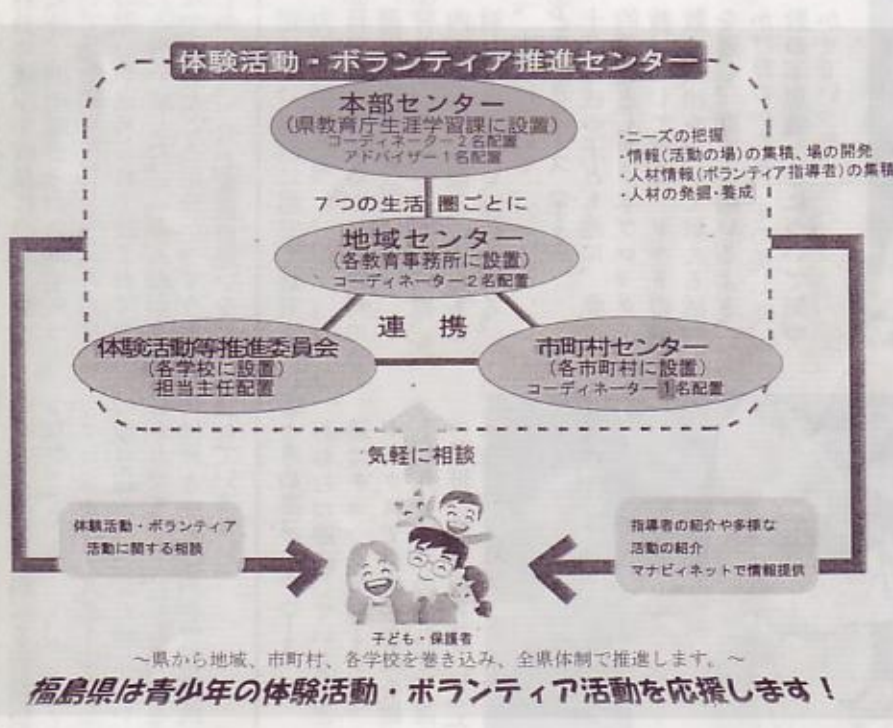
村に設置されることになっている。体制が整備され、情報のデータベース化が進めば、個人が、グループが、学校が、関係機関団体が、気軽に体験活動・ボランティア活動の場

や人材の情報を得て、活動することができるようになる。青少年に社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むためにも、早期に体制づくりが望まれる。

この一環として、地域の教育力の活性化及び奉仕活動・体験活動の充実を総合的に推進するため、情報提供やコーディネート等を行う「本部・地域センター」や「市町村センター」を県や市町村に、全小・中学校、県立学校には、体験活動・ボランティア活動を推進し、開かれた学校づくりをするための「体験活動等推進委員会」の設置をお願いしている。

センターの主な役割は、コーディネーターを配置し、奉仕活動・体験活動の機会や場の開拓、情報収集・提供、相談、支援ボランティアの情報提供などを行う。

「市町村センター」は、平成十六年度までに県内全市町



福島県は青少年の体験活動・ボランティア活動を応援します!

地域に学ぶ

いにしえロマン

塩川町教育委員会

内屋敷遺跡は、JR磐越西線塩川駅から西へ四kmに位置し、会津盆地平坦部北西側の日橋川と阿賀川(大川)の合流点付近に形成された河岸段丘にあります。

内屋敷遺跡は、約三万二千方という広大な地域が遺跡と推定されていますが、発掘調査は、県営ほ場整備事業に伴い平成十一年から開始され、本年度(第四次調査)ですべての調査を終了し、来年度に調査報告書を刊行する予定になっています。

また、遺跡の西北約二kmには、東日本で最大級の豪族居館跡の国指定史跡の古屋敷遺跡が位置しています。

調査の結果、古墳時代前期(約

一千六百年前ころ)と後期(約一千四百年前ころ)、奈良・平安時代(約一千三百年〜八百十年前ころ)や中世(十二世紀〜十六世紀ころ)の遺構、遺物が多数発見されました。

古墳時代では、周溝墓や大型の区画溝と竪穴住居跡、古式土師器などの土器が発見されています。

奈良・平安時代では、大型の堀立柱建物跡と仏堂・塔・礼拝堂が発見されています。このほか、土器では、土師器や須恵器が多数出土しましたが、大変珍しい遺物として「瓦塔」と呼ばれる土製の塔の一部が出土しました。

瓦塔は、実物の木造塔(五重塔)を模倣して作った土製の塔で、内屋敷から出土した破片から推定す

ると約二m程度の大きさになると思われます。また、瓦塔そのものは、建物の中に納められていたものと思われ、瓦塔の中には経文や小型の仏像などを納めていたものとされます。

さらに、瓦塔以外にも仏前に火を灯すための灯明具も出土しており、仏堂施設と具体的な仏教関連遺物がセットで確認されたことは大きな成果であり、八世紀の後半頃までにはこの地域に仏教信仰が広く浸透していたものと推定され、大変重要な発見と考えられます。



一人一人を活かす学年経営の試み

学年通信の発行や学年生徒会の活動を通して

喜多方市立第二中学校 石川 由美子

学年の活動の活性化を図る学年経営を目指し、次の二点に力を注いでみました。

一、生徒・保護者・教師の三者の連携を強める学年通信の工夫



これまでに、学校・学年の伝達に偏りが多かった学年通信を、生徒や保護者と教師の三者が共に学年を作っていくという意識が高まるように心がけました。

具体的に記載すると、(1)日常生活で、生徒一人一人をじっくり観察し、全員の善い行いをより多く報告す

二、学年生徒会の活性化
生徒一人一人を活かす方法のひとつとして、リーダーの育成が大切と考え、学年生徒会を編成し、

次のような活動を実践しました。
(1)自主的な活動ができるように活動を構成する一連の仕事、すなわち、企画↓検討↓学年会議↓協議(学級協議)↓修正協議(学年協議)↓報告という活動の手順を理解させ、これに沿って諸活動を行う。
(2)学年集会では、生徒同士が協議できる場を設定し、生徒の生の声が出るようにする。また、学級での協議を多く持ち、一人一人が学年の一員で、学年を背負っていることを自覚させ、誇りを持って学校生活ができるように心がける。
中学校三年間を通して、学年生徒会を組織し運営していけば、大きな成果が得られると考えます。生徒一人一人を活かすということは大きな課題ですが、今後いろいろな試みに挑戦していきたいと考えています。



三年 地域体験 四年 ホタルの研究 五年 福刈り体験 六年 人から学ぶ

本校では、昨年度より「地域の特色を生かし、子どもが求め追及していく生活科・総合的な学習」を研究主題に掲げて、総合的な学習の時間「やかたタイム」の研究に取り組んでいる。

総合的な学習を展開していくにあたって、特に重要視したのが「地域の素材と人材」である。北会津村は河川の氾濫原に位置する中州の湧水群に恵まれた地域で、農業生産活動はもちろん、ホタルやイトヨの群生地としても知られている。さらに、田村山古墳や銀山街道、全国初の全村圃場整備といった歴史も豊かな地域であることから、地域素材とそれにかかわる人々とのふれ合いを大切にしたい学習の展開に努めている。

特色ある学校紹介

地域に根ざした「やかたタイム」北会津村立荒館小学校

習の内容を保護者に提示し、協力できる方を募り、また地域内で推薦できる方の情報収集を行った。同時に、役場・公民館からも情報を得ながら「人材バンク」の作成を行った。

以上のことを事前に行い、さらには各学年の発達段階と各教科との関連を踏まえて、「人と自然」(環境・食)、「人とくらし」(産業・福祉・人)、「人と文化」(伝統・国際理解)の3つの領域を設定し、それぞれの学年でテーマを設定して取り組みを進めている。

○三年生では「大好き北会津」をテーマに地域探検活動を中心にして自慢マップづくりに取り組んでいる。

○四年生は「見つけようふるさと」をテーマにホタルやイトヨの生態、村の花・木・鳥などを調べ、北会津村カルタづくり。

○五年生は「米づくりの村で」をテーマに、田植え・福刈り体験活動を中心に村の稲作の様子を社会科と絡ませながら。

○六年生は「北会津のよさ再発見」をテーマに、村の様々な歴史や自然、福祉を中心に、そこに関わる人々の思いや生き方を学ぶ学習を展開している。

今後も地域素材を大切にしたい学習を展開していきたい。

私の抱負

魅力ある図書館づくり



北塩原村立裏磐梯小学校
校長 穴澤 眞澄

まだ校庭に雪の残る裏磐梯小学校に赴任して半年が経ちました。

純真な子供たち、研究熱心な先生方、協力を惜しまないPTAのみなさまに支えられて何とか過ごしております。
今年本校の現職教育では、総合的な学習の時間について単元づくりと実践を進めております。授業参観で感じるのは、「学校図書館をもっと機能させればもう少し児童に力がつくのではないか」ということでした。
そこで、基本に立ち返って、学校図書館の整備に取り組んでいる毎日です。先進校を参考に魅力ある図書館づくりをしたいと考えております。

生徒と共に



会津若松市立第五中学校
教諭 岡崎 裕邦

会津に赴任してあっという間に季節が過ぎ去っていった。まだ未熟な自分ではあるが、生徒と接している時間がとても楽しい。生徒の笑顔に何度助けられたことか。生徒の素直な感性に触れ、美術という教科の素晴らしさ、それを教える事の嬉しさを改めて感じている。

「先生、俺、美術いぢばん好きない教科だよ。」あの時の生徒の笑顔が忘れられない。また、原稿締切日の今朝、私も関わった学習発表会の爪楊枝点描画の紹介新聞記事のコピーが机上に置かれ、「新聞見たか」「よかったな」など多くの先輩に声を掛けられた。先生方の想いを吸収し、生徒の頑張りに応えられるよう教師として大きくなりたい。

「陸路と航路」



昭和村立昭和中学校
教諭 内藤 宣子

回り道をしてやっと教職に就くことができた今年、感激の次に訪れたのは、

経験が浅いことへの不安と焦りであった。そんな私に次のように助言してくれた人がいた。
ストリートで就職した先生の道を陸路とすれば、私の回り道は航路。私と同じ年齢でありながら陸路で経験を積んだ先生とすぐに同じレベルで働ける訳がない。その知識や技術はこれから必死に学べば良い。逆に海で身に付けた良さが何かあるはず、それを生かした教育活動をするのが仕事ではないのか。
自分の良さを生かしつつ、生徒の良さを最大限に伸ばすことができるような教師を目指して頑張っていきたい。

心に残る人々



アントニオ猪木選手ほどではないが顎が長いため「馬」という渾名が付いている

た。中学二年の時の担任であり、数学の教師でもあった。年の割りには頭髪が後退していたが、いつも額に手を当てて考えごとをしているからだと言っていた。

北塩原村教育委員会教育長 斎藤 八郎

をして言う。「君も今にこうなる」と脅す。渾名の話が出ると「ヒヒーン」といえないでみせ、まわりを笑わせる。
宿直の日には友人達と押し掛け、夜食をご馳走になりながら色々なゲームを教えていた。中学校卒業後は、年に一、二回仲間が集まって、その頃結婚されていた先生のご自宅を訪ねるのだが、近況報告に花が咲き、帰る頃

にはいつも陽がとっぷりと暮れていた。皆の話を楽しそうに聞きながら一つ一つ相槌を打っておられた先生の姿が忘れられない。そんなことが大学の頃まで続いたが、大阪を離れてからお会いしていない。今どうしておられるだろうか……。
いつの日にか、お会いして恩返しを、と思うが、「そんな必要はないよ。顔さえ出してくれれば」先生の声が聞こえてきそうだ。

作品と指導



抽象彫刻
ミニュメントを作ろう
会津若松市立第一中学校
三年 本間 由佳



習字
平和
新鶴村立新鶴小学校
五年 兼松 大聡

作品に自分の気持ちをしっかりと入れること、自分の表現をすることの二つを意識させた。学校生活、勉強、遊び、全てバランスが必要である。それらのバランスをうまくコントロールし、自分を磨き、さらに上へ伸びようとする由佳さんの「思い」である。
指導者 小澤 建 二

指導者 三星 敬子

絵
地底にまよいこんだ
山都町立山都第三小学校
四年 瀬戸 亮



テレビゲームの主人公になって、「迷い込む」をテーマに、自由に想像を働かせ、地底の世界の表現を楽しんでいた亮くん。
描画の材料も工夫し、スポンジを小さく切って割り箸につけ、大胆な色づかいをみせている。白や黄色の斑点が画面の緊張を和らげている。
指導者 本多 寛 徳